

参考資料

ジェロントロジーとは 東京大学高齢社会総合研究機構とは

～安心で活力ある超高齢・長寿社会へ～

Gerontology
Gerontology

2022年4月

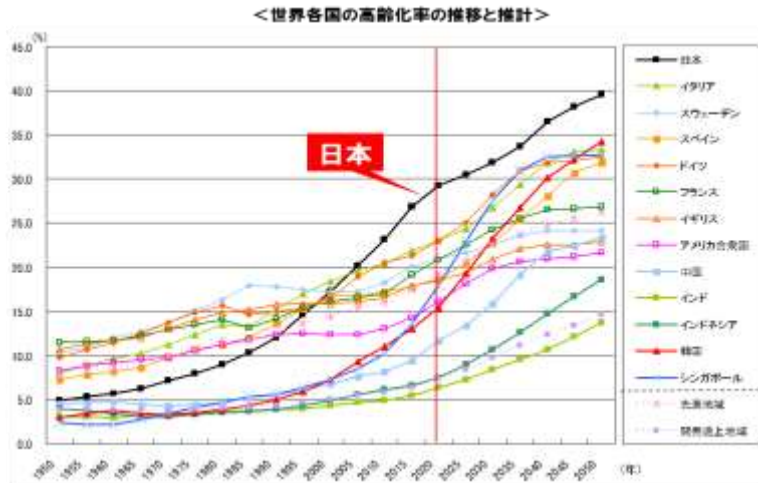


RESEARCH

ニッセイ基礎研究所 ジェロントロジー推進室

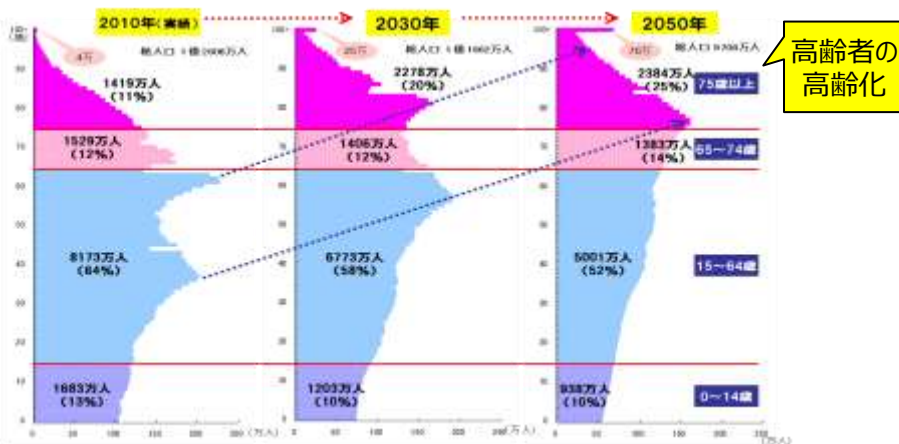
日本の未来・・・「超高齢・人口減少社会」

■ 日本は高齢化最先進国・フロントランナー



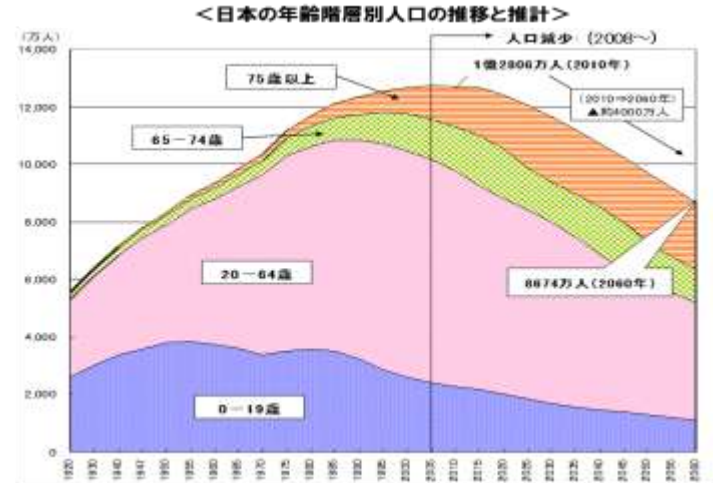
※先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドをいう。開発途上地域とは、アフリカ、アジア(日本を除く)、中南米、メキシコ、ミクロネシア、ポリネシアからなる地域をいう。
資料: UN World Population Prospects: The 2010 Revision ただし日本は、総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

■ 5人に1人は75歳以上、85歳以上の急増



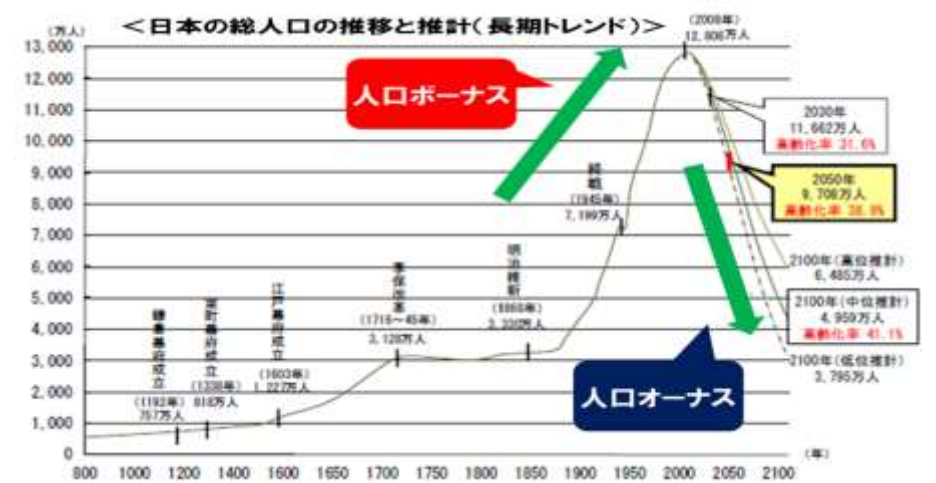
資料: 総務省統計局「国勢調査(2010年)」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

■ 2008年～人口減少へ



資料: 総務省統計局「国勢調査報告」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成24年1月推計)[出生中位(死亡中位)推計値による。各年10月1日現在。1947～70年は沖縄県を含まない。総数は年齢不詳を含む。]

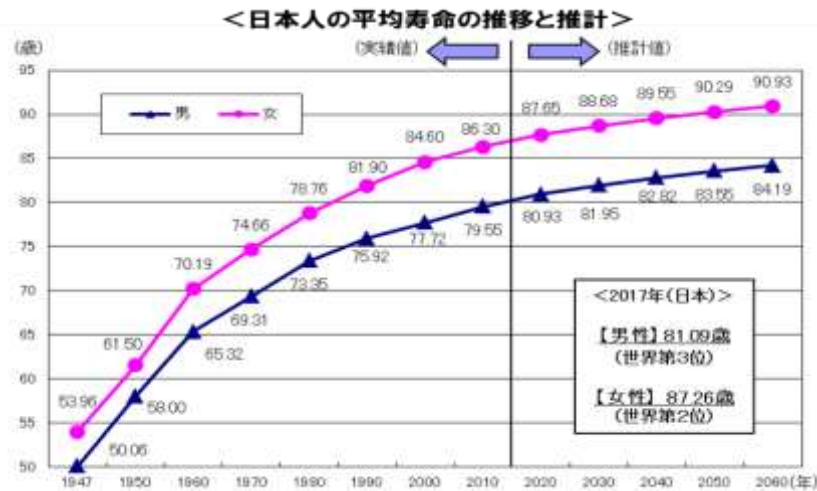
■ 明治時代へ回帰する



資料: 総務省統計局「国勢調査」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

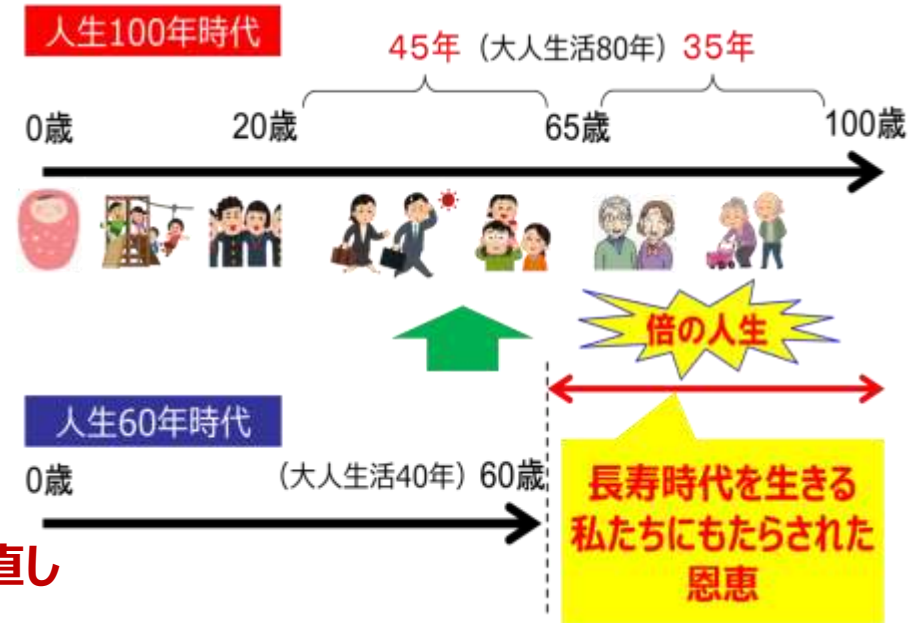
日本の未来・・・「人生100年時代」を歩いていく

■ “寿命革命”から延伸し続ける寿命



資料：1947年及び1960年から2010年までは厚生労働省「完全生命表」、1950年は厚生労働省「簡易生命表」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

■ 「人生100年時代」の到来！



■ 若返る高齢者～高齢者定義の見直し

＜高齢者（65-79歳）の体力測定結果の年次推移【スポーツ庁】＞

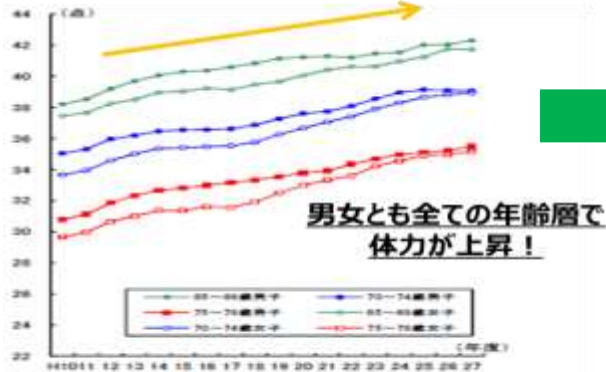


図4-7 新体力テストの合計点の年次推移
 (注) 1. 図は、5点移動平均法を用いて平滑化してある。
 2. 合計点は、新体力テスト実施要領の「項目別得点表」による。
 3. 得点基準は、男女により異なる。

資料：スポーツ庁「平成27年度体力・運動能力調査結果」より

新たな「高齢者の定義と区分」(提言内容)

65～74歳	准高齢者 (pre-old)	准高齢期	65-74歳は高齢者ではない！
75～89歳	高齢者 (old)	高齢期	
90歳～	超高齢者 (oldest-old, super-old)	超高齢期	

日本老年学会・日本老年医学会「高齢者に関する定義検討ワーキンググループ」(2017年1月)



日本の未来・・・拡大し続ける「高齢者市場」

■ 国内市場は“100兆円市場”

<家計消費市場全体に占める60歳以上高齢者消費の割合と60歳以上消費額の推計>
(※高齢者人口の増加と高齢者世帯の構成変化のみを反映した推計)



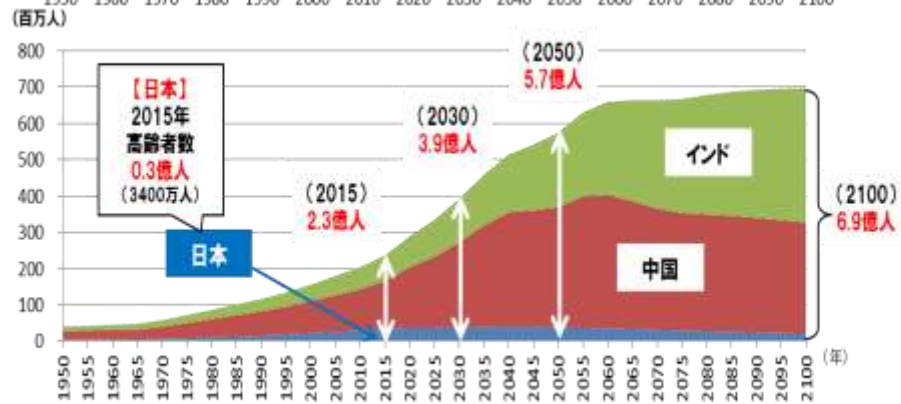
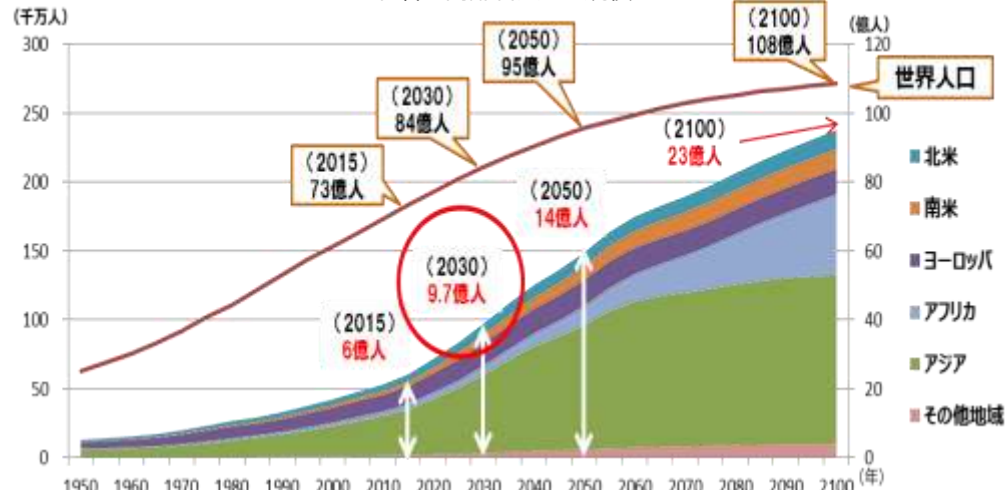
資料:ニッセイ基礎研究所試算

■ 企業として高齢者市場は無視できない



■ 世界には30倍 (= 10億人) の高齢者市場が待ち受ける！

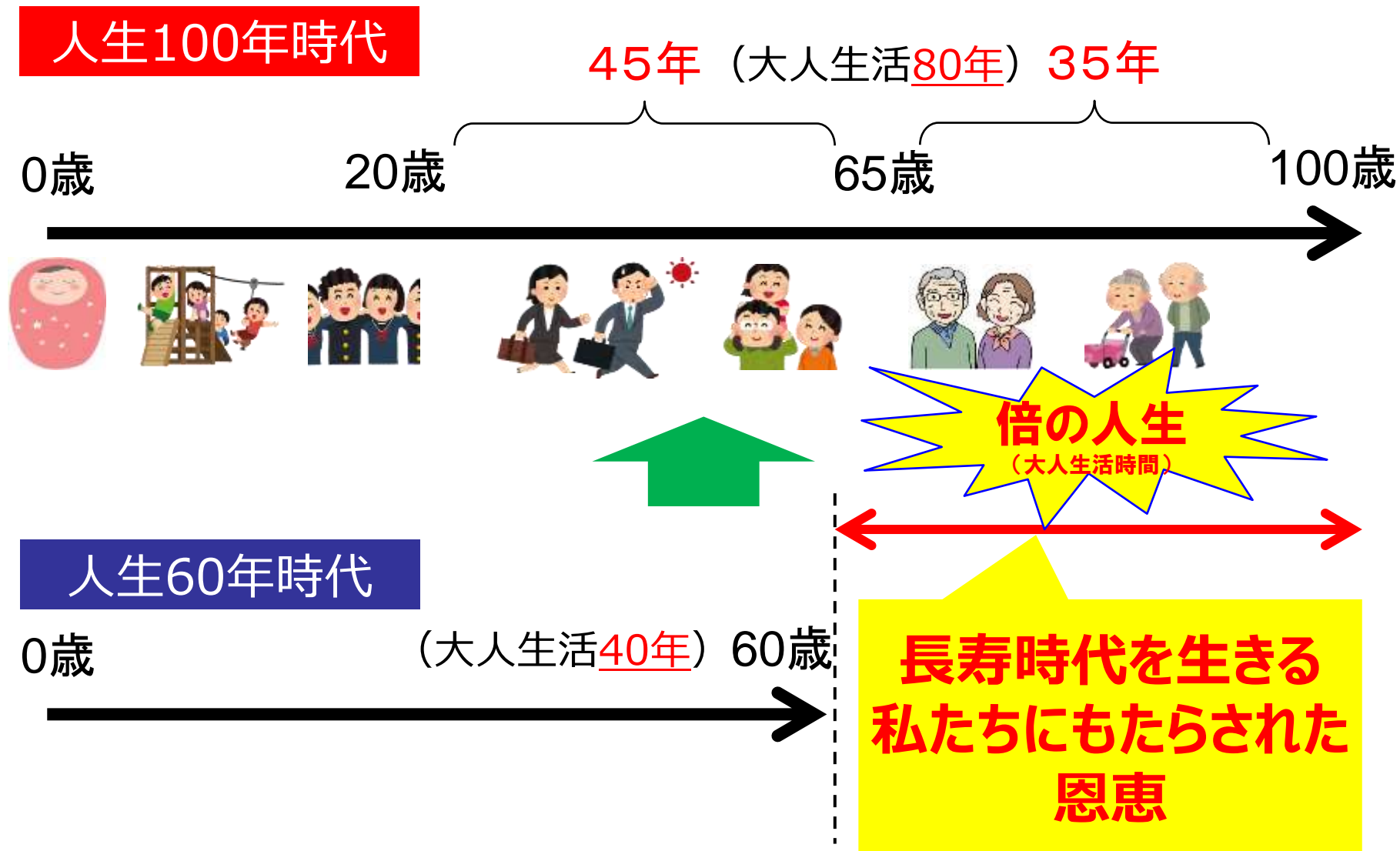
<世界の高齢者人口の規模>



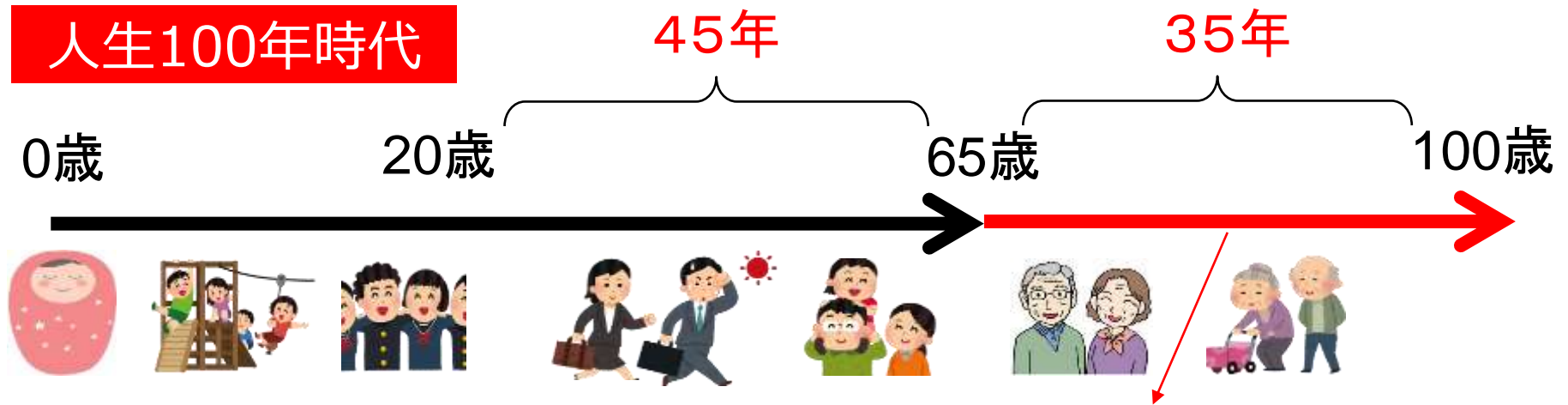
※高齢者人口は65歳以上の人口。「世界人口」以外はすべて高齢者人口を表している

資料: United nations: World Population Prospects: The 2012 Revisionより作成 (ただし日本は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計」(平成24年1月推計)、出生・死亡中位推計値)

…100歳という人生の長さ、その意味

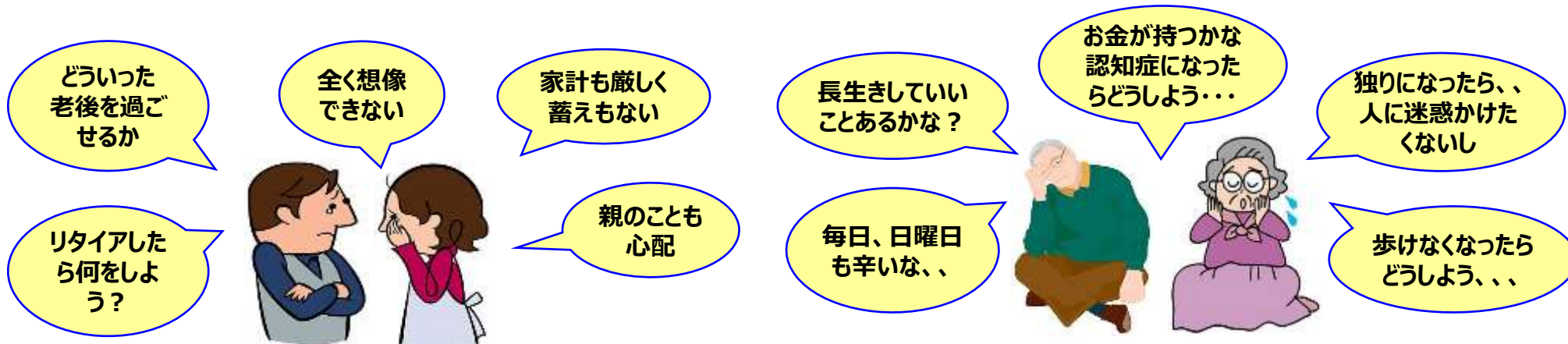


…100歳という人生の長さ、その意味



延長した人生（高齢期）…**希望** < **不安**

…人生100年をどう生きていけるか？特に延長された高齢期の生活を？



…100歳という人生の長さ、その意味

延長した人生（高齢期）…希望 < 不安



…ジェロントロジーの役割

延長した人生（高齢期）…希望 > 不安

本格的な超高齢・長寿社会は**目前**に迫っている

(残り10年)

2030年

加齢（長寿）に
価値ある社会



ジェロントロジーとは・・・

Gerontology Gerontology

“高齡化課題解決の担い手・プラットフォーム”

(テーマ1) **超高齡未来**に相応しい**社会システム**再構築

(テーマ2) **長寿時代**に相応しい**人生設計**の再構築

Gerontology

Geront (ギリシャ語の高齢者) + ology (学)

「老年学」「加齢学」「高齢社会総合研究学」・・・

※東京大学 高齢社会総合研究 機構

Institute of Gerontology (IOG)

【発祥】 1903年、パスツール研究所 (仏) ・メチニコフ博士命名

【発展】 1929年世界大恐慌～1938年ミシガン大学Institute of Human Adjustment (IHA) ～1965年**The Older Americans Act** 制定・・・ジェロントロジー教育・研究機関が拡充 (約300大学等)

Gerontology

“**AGING**（加齢・高齢化）”が研究テーマ
加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会における
個人と社会の様々な課題を解決することが目的
AGINGを科学する学問 = ジェロントロジー

- **ジェロントロジーは日進月歩で発展；研究テーマは時代とともに変化**
 - ～1980年：「老年医学」中心、寿命を如何に延ばせるか
 - 1987年：学術誌『Science』>「**サクセスフル・エイジング**」（Rowe & Kahn）、高齢者のQOL向上にシフト、「老年社会」が発展
 - 2000年～：「第IV期（75歳以上）」の課題解決
 - 「**ジェロンテクノロジー**」など新たな研究分野の登場
 - 「**社会の高齢化**」の課題解決にシフト

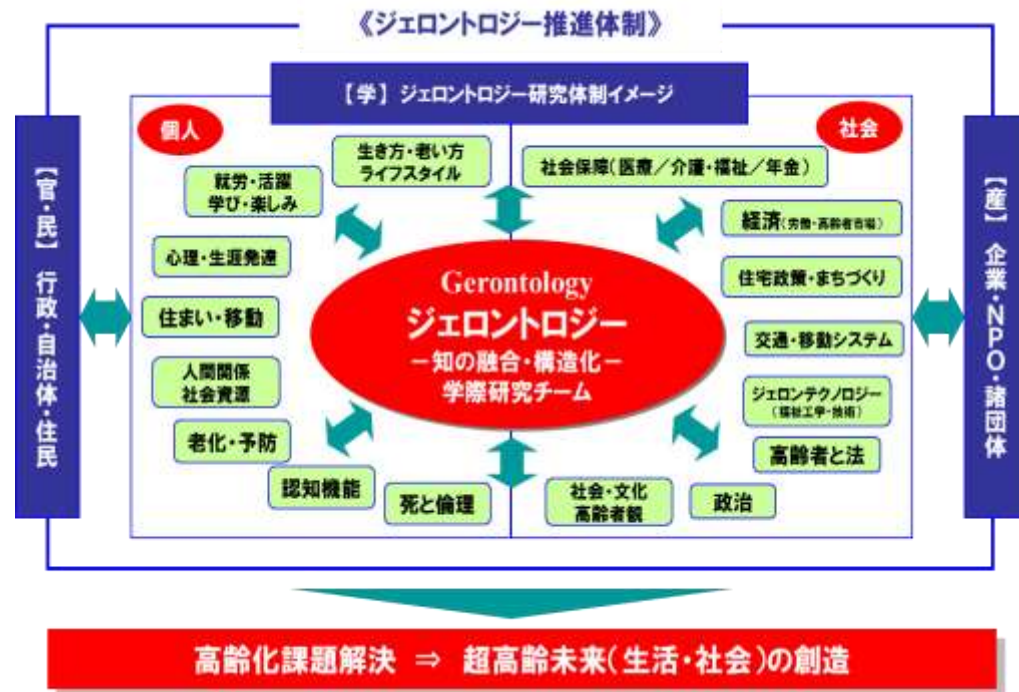
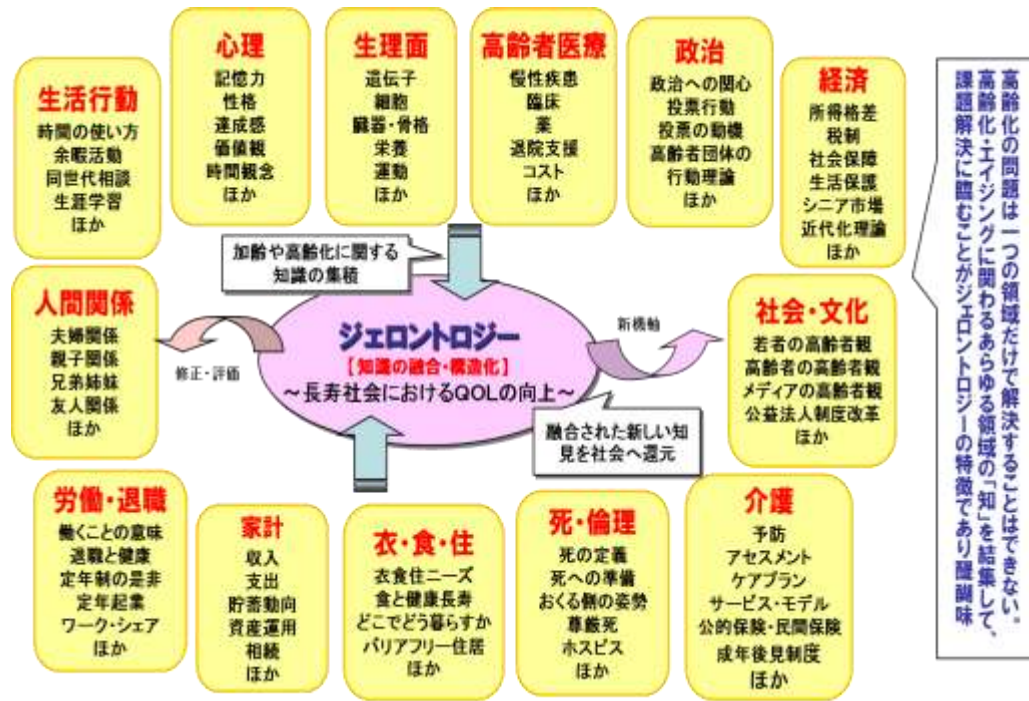
※日本学術会議 提言「持続可能な長寿社会に資する学術コミュニティの構築」（2011年4月）
⇒ジェロントロジーの変化・拡がり、日本におけるジェロントロジーの必要性を提言

ジェロントロジーとは・・・

■ ジェロントロジーの特徴：「学際的」「実学的」→「総合知」の創出

知を結集して、新たな知を創出

産官学民で協働・共創する



■ ジェロントロジーは未来を創る！次代の高齡者（若者）の未来に貢献！

<補足> ジェロントロジーの特徴・効果説明①

ジェロントロジーの特徴
そもそもこの学問としての

これまでのエイジング(加齢)研究
『**身体**』としてのエイジング研究

○医学・生物学的視点が中心の加齢研究

⇒老化・機能低下が強調され、**高齢者=弱者**の印象・考え方が研究者に浸透

ジェロントロジーでは…
『**人間**』としてのエイジング研究

QOL (Quality of Life) 向上の視点による加齢研究

生物学的視点 ■ 身体に加齢変化	心理学的視点 ■ 心と知能に加齢変化
社会心理学的視点 ■ 個人と周囲の関係	社会学的視点 ■ 社会の高齢化の影響

QOL向上に向けた相関関係を研究

高齢者の強み・弱みが明らかとなり、加齢を正しく理解することが可能に

高齢化に関する学際研究として発展

①より良い介護のあり方について

ジェロントロジーの効果
事例イメージ①

要介護者への対応

- ・家族任せの対応(介護保険導入前:措置対応)
- ×寝かせきりも当たり前
- ×慣れない施設での生活
- ×あくまで病人として、医療を中心に対応

ジェロントロジーでは…

要介護者のQOL向上に向け、多面的なサポートの可能性を追究

- 本人・家族の心理を研究
- 介護ロボットの開発・導入
- 全人的なケア追究
- 地域福祉政策
- 予防・リハビリの効果検証
- 食事・栄養・口腔ケア
- 医師・看護師・介護士の連携

医学・看護学・介護学・工学・心理学・社会学・福祉学・行政学等、あらゆる分野が参加することで、要介護者及び家族のQOL向上


<補足> ジェントロジーの特徴・効果説明②

② 高齢者の就労問題について

ジェントロジーの効果
事例イメージ②

高齢者の就労環境

- ・定年制度の下、高齢になれば引退
- × 働きたくても働く場がない (生きがい消失)
- × 収入は減少 これからの人生はまだ長い (将来不安)
- × 高齢になれば能力が低下するという思い込み




ジェントロジーでは・・・

高齢期の活躍場所の拡大に向け、学際的視点からの研究・取組みを推進

年齢によらない本人の就労能力を適正に評価する手法の開発

地域社会の支え手としての高齢者の活躍場所・しくみを構築

高齢者の雇用機会拡大に向けた政策提言



医学・心理学・労働学・社会学・行政学等が参加することで年齢に対する偏見を科学的に払拭し、高齢者の活躍場所の拡大を実現

③ 地域の安心・まちづくりについて

ジェントロジーの効果
事例イメージ③

地域の安心・環境・街づくり

- ・生活者を基点とした街づくり・行政サービスが十分でない
- × 独りで買物にも行けなくなったら・・・
- × 病院にも施設にも入れない
- × 家族は遠く、近くに友人もいない
- × 最期まで自宅で暮らし続けられない現実



ジェントロジーでは・・・

最期まで安心してより豊かに自宅で暮らし続けられる地域を創造


24時間対応の在宅医療福祉制度の構築

遠隔医療の導入

住宅福祉政策 地域全体のバリアフリー化

生活支援・見守り強化・移動サポート

地域交流促進



医学・看護学・心理学・社会学・工学・建築学・行政学等及び地域行政・産業界が参画することで、超高齢社会に相応しい地域創造を実現

東京大学高齢社会総合研究機構で取組中(東大-柏モデル)



The Institute of Gerontology

東京大学高齢社会総合研究機構とは…

2006-08年

東京大学総括プロジェクト機構ジェロントロジー寄付研究部門

日本生命他
が設置

昇格

2009年～

東京大学高齢社会総合研究機構

東京大学の恒常的
組織として設置



ジェロントロジーの目的である「**安心で活力ある豊かな超高齢社会の実現**」に向けて、行政(自治体)や企業とも連携をはかりながらジェロントロジー研究活動を推進する拠点

東京大学IOG ①沿革

2006年度～



日本生命



セコム



大和ハウス



東京大学総括プロジェクト機構
ジェロントロジー寄付研究部門

恒常的組織へ発展

2009年度～

東京大学高齢社会総合研究機構



東京大学IOG ②研究目標



高齡社会総合研究機構 (Institute of Gerontology : IOG)

"Chōju"と"Ikigai"を自己実現できる新たな価値を感じる地域コミュニティ



ビジョン および ミッション

Gerontology (ジェロントロジー) すなわち「個 (個人のエイジング : 加齢)」と「地域社会」の両面から諸問題の解決に取り組むために、学際的・総合的・実践的な知の体系【総合知】を創成し、分野横断型の課題解決型実証研究 (アクションリサーチ) によって新たな知識と技術を地域社会に還元/実装する研究機構。少子高齢化を基盤とする超高齢社会に対して、新たな地域社会の在り方をエビデンスベースの政策提言も行う。また、地域連携・産官学民協働・国際連携にも重きを置き、その卓越性のある総合知から変革を駆動できるジェロントロジー研究拠点として、「地域活力のある、及び多様性のある超高齢社会の実現」に向けて国内外に発信することを目指す。

産学協創【ジェロントロジー産学連携】 8つのテーマ

ジェロントロジー・アカデミーで学ぶ8つのテーマはさまざまなビジネスの創出を加速します

ジェロントロジー・アカデミーは、高齢社会の課題と自社の事業との接点に関心を持つ企業が学ぶ場です。高齢社会に関する幅広い知識の習得にまたがる8つのテーマについて専門家から体系的に学ぶだけでなく、繰り返し議論し、ワークショップを重ねます。アカデミーの学習成果は学術的な観点で高齢社会を捉え、自社のビジョンの方向性を見出し、新たなビジネスチャンスを開き出し、高齢社会のエキスパートとして事業の中枢を担う人材を養成することができます。

高齢者地域就労の仕組みの開発



就労

フレイル予防産業の創出



予防

生活支援産業の創生



生活支援

地域包括ケアシステムを支える民間事業開発



ケアシステム

共同研究 8つの領域
IOGでの学び・研究を未来の事業に活かしたい 企業向けステージ
ジェロントロジー・アカデミー



住まい

住宅地再生の標準化



金融・法

金融関連および法



福祉工学

ジェロンテクノロジーの開発普及



情報システム

人・まち全体をつなぐ情報システム開発



■ジェロントロジーアカデミーの実践的なワークショップ
ジェロントロジーアカデミーの学びは、企業とグループ対話を通して具体的なアクションプランのプログラムです。毎月のテーマが提示する社会課題について、最先端の知をインプットした後、ワークショップで具体的なビジネスモデルを構築し、解決策を導き出します。このプログラムで企業や分野の異なるメンバーと、企業内の異なる部署とは異なる人材育成効果も期待できます。



未来社会に必要な“新しい価値”を **民 産 官 学** で共創する！



■名称：一般社団法人
未来社会共創センター

■沿革
2017年4月
高齢社会共創センター 創設
(高齢社会検定協会を改組)
2020年9月
未来社会共創センターへ名称
変更(長寿社会事業部門、
ライフスタイル事業部門の設置)

■所在地：東京都文京区弥生
2-11-16 東京大学工学部
9号館総合研究機構内

■センター長 辻 哲夫
※顧問・理事・監事 23名



<http://www.cc-aa.or.jp/>

共創事業

Citizen Centered Design

リビングラボ事業



社会教育事業

高齢社会検定事業

■ジェロントロジーの基礎知識を提供
合格者「高齢社会エキスパート」は
2600名超に
(2013~高齢社会検定協会からの移行事業)

会員サービス事業

会員限定セミナー

■リビングラボ (Living Lab) とは

特定の地域をベースに民産官学が共創する形で、まちづくり(地域が有する課題の解決等)や商品・サービス開発等を行う地域に常設された共創拠点

世界では欧州を中心に約400の
リビングラボが存在



生活者(当事者)が企画段階から参加
新たなオープンイノベーションの場



生活者(当事者)のニーズに合う
より質の高い成果・解決策を産出

■「鎌倉リビングラボ」の展開 (2017~)

生活者ニーズ・自治体ニーズ・企業ニーズにもとづく各種プロジェクトを実施



■「東大和ライフスタイルラボ」の展開 (2020~)

■日本版リビングラボ・ネットワークの構築

リビングラボ研究交流会

■登録メンバーは400社・団体、900名
新たな価値を共有する場として継続開催



など

＜本資料に関する問合せ先＞

ニッセイ基礎研究所 ジェロントロジー推進室

担当 : 前田 (上席研究員)

[東京大学高齢社会総合研究機構 / 未来ビジョン研究センター 客員研究員]

TEL : 03-3512-1815

Email : maeda@nli-research.co.jp